

特集 市の公共交通サービス
地域と地域を結ぶ。人と人を結ぶ市営バス。

市営バスに乗ろう

コミュニティバスとは

市営バスの必要性

3年に1度の見直し
7月1日にダイヤ改正

コミュニティバスは、自治体などが住民の移動手段を確保するために運行するバスです。

民間では、赤字路線になるため、撤退したり運行されなかったりする地域を、自治体が採算度外視で低運賃を維持しながら市街地や中山間地域などの交通空白地帯で公共交通サービスを提供しています。

従来の民間の乗合バスとの大きな違いは、住民の交通の利便性向上を目的とする「地域住民の生活交通」であること。子どもや高齢者、身体障害者など、自分で車などを運転できない人たちが、買い物や、病院、公共施設などに行くために大切な交通手段となっています。

市の高齢化率（65歳以上）は平成22年国勢調査で27・1%。国立社会保障・人口問題研究所によると32年には32・0%になると推計されています。

市の主要な交通機関となる鉄道や民間バス、さらに買い物や病院などの商業施設などは南部に集中しており、中山間地域のある北部では、駅やバス停から遠い地域も多く、高齢者や身体障害者が移動するには負担が大きくなっています。

この「移動しにくさ」が原因で、閉じこもりがちになることも少なくありません。移動しやすい環境を作ることが、高齢者の元気を維持してもらええる要素だと考えます。

年を取っても元気にまちへ繰り出せる高齢者にやさしい社会の実現に向け、市営バスが大きく貢献しています。

合併後、市営バスの見直しは26年度で3回目。7月1日にダイヤを改正します。

見直し調査では、利用者アンケートやヒアリング調査などから、今の路線や時刻表が分かりにくいという意見が多く出されており、路線と時刻表を整理することとしました。

これまで細かいニーズに対応してきた結果、系統として集約できない路線が多くなり、平日ダイヤ71便中（スクールバス含む）54種類の路線となっていました。同じルートを走る路線がほとんどない状況は、全体的にわかりづらい路線網を構築していました。

また、時刻表も、鉄道や民間バスの時刻に、出来るだけ接続できるように調整し、見やすく、使いやすいものを作成。さらに、ホームページも分かりやすいものにするように調整しています。

地域のニーズに

応えるために

利用者の中心は、車の運転ができないおばあちゃん達。

地域の声

中山間地域や交通空白地域へ出向き、市バスについてヒアリングを行いました。香我美町の奈良地区でのヒアリングでは、「市営バスがあるお陰で助かっています。毎日上がってこなくてもいいです。予約式運行でもいいです。とにかく市バスをなくさないで」と切実な声が聞かれました。

また、羽尾地区では、合併後、夜須町にあった銀行がATMだけになったことで、使い方がわからず、わざわざ窓口がある赤岡町まで行っているという話を聞きました。高齢者にとって、移動することと会話をすることはとても大事なことなんだと気付かされました。見直しでは、奈良地区は予約式運行を継続し、羽尾地区では、銀行窓口へ行けるルートを設定しました。



▲香我美町奈良地区にて…市営バスの利用状況などお話を伺うヒアリング調査
今回の見直しでは、高知工科大学と委託契約を結び、学生や研究員が聞き取り調査を行いました。（上写真右 工科大学の土居研究員）

